

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	物理IA、物理II、数学IA、数学IB、数学II、化学IA、化学IB
教科書	『物理基礎』、『物理』(東京書籍)
補助教材等	『ニューアチーブ』(東京書籍)、『スタディノート物理』(第一学習社)、配布プリント
学習上の留意点	
<p>物理では新しい見方や考え方がしばしば出てくるため、最初、難しく感じるかもしれません。まず予習をしておおよその内容を理解し、疑問点や分からぬところを見つけてください。授業をしつかり聞けば、多くの疑問点は解決できるでしょう。ノートや教科書は何度も読み直し、自分にとって分かりやすいようにメモを加えてください。疑問点などを友達と話し合い、理解を深めることも大切です。また、授業で出てくる重要な語句の意味を理解し、正しく覚えてください。例えば、「速度」や「力」について、日常で使う意味と、物理で使う意味は、異なります。そのため、「速度」が何を表すのか分かっていないと、「速度」は求められませんし、次に習う「加速度」がどういう意味なのか理解できません。もし、分からなくなったらときは、何が分からないから分からないのかを考え、前に戻って確認し、疑問を解決してください。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>「物理IB」は「物理IA」に続く科目です。「物理IA」で学習した速度や加速度、力が基礎になります。等加速度直線運動は、物体の運動がイメージしやすいため、あまり難しくなかったと思います。運動方程式についても、1つの物体に1つの力が働いている場合は、考えやすかったと思います。「物理IB」では、最初に「系でつながれた2物体の運動」や「斜面上の物体の運動」について学びます。これらの運動も運動方程式で表されるのですが、複数の力が出てくるため、混乱してしまう人が少なくありません。運動方程式にある力Fは、考えている物体に直接働く合力を表します。例えば、物体に重力と張力が働けば、この2力を足したものが合力Fです。単に $F=ma$ を覚えているだけでは、この式を使えません。もちろん、式の意味をきちんと理解すれば、誰でも容易に問題が解けます。これから様々な法則が出てきますが、式の意味がわかれれば難しくありません。ただし、何となくの理解では、問題が解けません。</p>	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	水平面上の物体の運動、斜面上の物体の運動	水平面上の物体の運動、斜面上の物体の運動が理解できる。	予習として p. 56-58 を読む。
2	摩擦力が働くときの物体の運動	摩擦力が働くときの物体の運動が理解できる。	前回の範囲の教科書とノートを読み直し、予習として p. 58-61 を読む。
3	仕事、仕事率	仕事、仕事率が理解できる。	前回の範囲の教科書とノートを読み直し、予習として p. 76-81 を読む。
4	運動エネルギー、重力による位置エネルギー	運動エネルギー、重力による位置エネルギーが理解できる。	前回の範囲の教科書とノートを読み直し、予習として p. 82-85 を読む。
5	弾性エネルギー、重力が関係する力学的エネルギー保存	弾性エネルギー、重力が関係する力学的エネルギー保存が理解できる	前回の範囲の教科書とノートを読み直し、予習として p. 85-89 を読む。
6	弾性力が関係する力学的エネルギーの保存、力学的エネルギー保存の法則が成り立たない場合	弾性力が関係する力学的エネルギーの保存、力学的エネルギー保存の法則が成り立たない場合が理解できる。	前回の範囲の教科書とノートを読み直し、予習として p. 89-92 を読む。
7	運動量、力積	運動量、力積が理解できる。	前回の範囲の教科書とノートを読み直し、予習として『物理』p. 66-68 を読む。
8	運動量と力積の関係	運動量と力積の関係が理解できる。	前回の範囲の教科書とノートを読み直し、予習として『物理』p. 68-70 を読む。
9	後期中間試験		
10	試験返却・解答解説	試験問題の解答解説を通して間違った箇所を理解できる。	後期中間試験の範囲を復習
11	運動量保存の法則、床や壁との衝突	運動量保存の法則、床や壁との衝突が理解できる。	予習として『物理』p. 72, 73, 80, 81 を読む。
12	直線上の2物体の衝突、運動量と力学的エネルギー	直線上の2物体の衝突、運動量と力学的エネルギーが理解できる。	前回の範囲の教科書とノートを読み直し、予習として『物理』p. 82-85 を読む。
13	等速円運動の表し方、等速円運動での加速度	等速円運動の表し方、等速円運動での加速度が理解できる。	前回の範囲の教科書とノートを読み直し、予習として『物理』p. 32-35 を読む。
14	向心力、遠心力	向心力、遠心力が理解できる。	前回の範囲の教科書とノートを読み直し、予習として『物理』p. 35-41 を読む。
学年末試験			
15	試験返却・解答解説、1年間のまとめ、授業改善アンケートの実施	試験問題の解答解説を通して間違った箇所を理解できる。1年間のまとめが理解できる。	1年間に習った範囲の教科書とノートを見直す。
総授業時間数			30 時間